

**第17回農作物病害虫防除フォーラム**  
～ I P M推進に向けた生物的防除技術の利用を考える～

**1 開催趣旨**

我が国において安定的に農業生産を行うためには病害虫防除が重要である。防除の実施に際しては、環境への負荷低減が求められている。農林水産省では、農薬だけに依存した防除から環境負荷を低減する総合的病害虫・雑草管理（I P M : Integrated Pest Management 以下「I P M」という。）を導入した防除への転換を推進しているところであるが、特に近年、土着天敵を含む天敵昆虫や微生物農薬等の生物的防除技術を利用したI P Mが実施されている。農薬による防除が困難な病害虫の顕在化や農業従事者の高齢化等により、効果的・効率的な病害虫防除が求められている中で、生物的防除技術は農業現場への更なる導入、普及が望まれる重要な技術である。

本フォーラムでは、生物的防除技術の生産現場での利用状況、現場へ普及する際の課題等について情報共有し、I P M推進に向けて総合的に討論を行う。

**2 開催日時**

平成23年11月2日（水） 13:30 ～ 17:00

**3 開催会場**

農林水産省講堂（本館7階）

**4 参集範囲：**

都道府県、病害虫・雑草防除関係独立行政法人及び民間団体、地方農政局等

**5 講演議題・講演者**

(1) 微生物殺菌剤の現状と今後の展開

兵庫県立農林水産技術総合センター農業技術センター  
環境・病害虫部 研究主幹 相野 公孝 氏

(2) 微生物農薬の効果的な処理方法の検討とI P M普及に携わって

宮城県農業・園芸総合研究所 園芸環境部 上席主任研究員 宮田 将秀 氏

(3) 露地ネギ栽培で有望視される土着天敵とその保護・利用の試み

千葉県農林総合研究センター 生産環境部  
病理昆虫研究室 研究員 大井田 寛 氏

(4) 害虫誘引植物を用いたトマト白ぶくれ症の抑制効果

岡山県農林水産総合センター農業研究所副所長 永井 一哉 氏

**6 総合討論**

座 長 元 光産業創成大学院大学 特任教授 牧野 孝宏 氏